

● 北海道千歳市（８月９日）

【人 口】 93,666 人 【面 積】 594.95 k m² 【一般会計総額】 423.2 億円

調査事項「青葉公園について」

・事業概要

青葉公園は、千歳市自然環境保全条例で第２種自然環境保全地区に指定する場所である。この公園の歴史は古く、千歳神社が置かれている場所から、通称「神社山」とも呼ばれていた。この神社山を公園化しようとしたのは昭和１９年に遡る。「青葉公園」という名称は、昭和２７年に一般公募により決まり、翌年都市計画決定を行っている。当時の面積は、４４．６ｈａで、その後、追加決定で９６．３ｈａとなり、現在は近隣の用地買収等を行い１０２．３ｈａとなっている。市街地の中心部の南西にあり、広大な自然総合公園で、公園内には図書館やピクニック広場、なかよし広場、テニスコート、陸上競技場、野球場、多目的広場等、１４もの施設が整備されている。整備された歩道の両脇は自然のままの雑木林が残されており、豊かな緑に包まれての散策を楽しむこともできる。



視察資料より

・利用状況

視察を行った当日も、実業団や学生の陸上部が合宿を行っており、市外、県外からの利用者も多かった。市外、県外の利用者も、千歳市内のホテルに宿泊する場合は、市内料金と同額で利用できることとし、利用率を高める工夫をしている。

また、陸上競技場の中だけでなく、各施設を結ぶ歩道自体も自然の中を走るランニングコースとして活用されていた。



・委員の感想

- 青葉公園は、見て楽しむよりも、キャンプ場、特にスポーツ施設整備されており、スポーツ場の利用者が多かった。広大な面積の中、車の乗り入れは禁止されており、歩き回って楽しむという公園ではないので、精神的、体力的な負担がある。公園内に蚊が多いのも大変。指定管理料が約1億3000万円。
- 青葉公園の周辺の宿泊施設は、スポーツ関係者の宿泊が多くビジネスよりも「合宿のためのまち」といった印象が深い。
- 陸上競技場は、夏場は涼しく、過しやすいので、各地から多くのスポーツ選手が合宿をしている。公園内を視察したが、豊かな緑に囲まれた散策路で、散歩やジョギングをしている人に多く出会った。
- 公園は自然環境保全地区に指定され、これ以上の開発（施設）はできない。
- 考えられない広さで、北海道のような施設は、東広島市内では、無理だが、散策路、ジョギングコースなどは考えたい。
- 豊かな緑に包まれた快適な施設であるが、蚊が多く衛生面で改善の必要性があると強く感じた。全国各地からスポーツ選手が合宿に来ているようで、運営においては十分アピールが来ており、受け入れ態勢も整っていると思う。
- 青葉公園は、千歳市役所等のある市の中心部の南西2kmに位置し、市民はもとより多くの方々の利用にいただいている施設のようである。総面積は102.3haを擁し、道内屈指の自然豊か総合公園であるといえる。公園内には、陸上競技場、市民球場はもちろん、多目的広場まであり、さらには図書館も配置されており、公園全体を緑豊かな森に囲まれ、縦横に散策道を設けてあり、多くの市民が散歩やジョギング等で利用されておる様



である。また、エゾリスは園内で越冬するようでありました。

- 自然林を利用した102.3haの広大な都市公園で19の施設を配置している。防衛省の補助金も多くのっているようで、総予算ははっきりしていないようであるが、建設時期がよかったと思う。維持管理において地元体育協会に1部を指定管理者にしているようだが、東広島も参考に出来ると思う。